



# 東日本大震災 被災者支援 北海道民医連ニュース

2011.4.8

## 今後の支援活動を、みんなで確認 道北ブロック「震災支援報告会」に100人

6日夜、道北ブロック震災支援報告会を開催しました。この会には、職員や友の会員だけでなく、医学生や市内の医療・介護関係者も含めて、約100人が集まりました。

### 学生、市内医療介護関係者も

冒頭、鈴木院長代行より、この間の道北ブロックの震災支援の取り組みや全国の状況が報告され、その後、これまで支援行動に参加した坂牧医師、鈴木看護師、野口看護師、安田薬剤師から、写真やスライドを交えて、現地の状況や支援の内容、今後どのような支援が求められているのか、が報告されました。

そして、10日から支援に参加する地域包括支援センターの石山所長より決意表明がありました。

報告会后には、みんなで「寄せ書き」を作成しました。今後、支援に参加する職員に託すことにしています。

(道北ブロック「震災支援ニュース」から)



### お知らせ

7日23:32に「震度6強」の大変強い余震がありました。

北海道からの支援隊は全員無事が確認されています(24:05)。

しかし、避難所や周辺地域の状況は確認できないでいます。

(仙台市内では火災も発生しています)8日朝を待つて、確認作業が始まります。

### 大船渡チーム 4月6日の報告

往診に入った山口地区では、多くが自宅に帰って暮らしています。電気水道とも未復旧のため、困っているという声が多く聞かれました。食糧、生活用品などの基本的な物資はだいたい満たされていましたが、あえて必要なものを挙げてもらうと、「単一電池、液体洗剤、化粧品、あとは情報」という答えが返ってきました。自宅にいる方々の方が、情報が入りづらくなっている(テレビなども見れないし)状況があります。

避難所によっては、大部屋のみで、女性のためのスペースや診療スペースを作ろうと思っても、シーツなどで区切ることもできないところがあって、悩んでいます。

また、室内が乾燥しきっているので、「窓の開け閉めによる空気の流れ替えを、時間を決めて行ってもらう」「みんなで掃除する企画はどうか」など、いろいろと考えているところです。

